OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ごあいさつ
Author(s)	川勝, 傳
Citation	癌と人. 1982, 9, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24111
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ご　あ　い　さ　つ

理事長　川　勝　　傳*

皆さまには，益々ご清祥のこととおよろこび申しあげます。

平素は，財団法人大阪癌研究会に対しまして格段のご協力をたまわり厚くお礼申しあげます。

ガンによる国民の死亡は少しも衰えず，ついにガンによる死亡が国民死亡率の第１位をしめるに至りました。また，ガン死の内容も大きく変りつつあります。すなわち，幸いにも子宮ガンによる死亡は急激に減少し，胃ガンもまた少しづつ減ってきています。しかし，肺ガンによる死亡は急増著しく，乳ガン，大腸ガンもじりじりと増えてきています。そんなことで一方ではその発生が減りつつあるにもかかわらず，他方では増えつつあるという複雑な様相を示しています。

ガンの早期発見，治療の進歩にも著しいものがありますが，幾多の隘路もありまして，関係各位の努力にもかかわらず，ガン死の恐怖は依然として我々国民の上に大きくただよって居ります。したがって，ガン征圧はいまや国民の悲願であると申さねばなりません。

財団法人「大阪癌研究会」が，ガン撲滅のための事業目標をかかげて，ガン研究機関への学術研究助成，ガンの検診普及活動に地道に努力をつづけておりますのも，こうした見地に立っております。

ガンの早期発見，早期治療が唯一の予防手段であります現在，財団法人大阪癌研究会としては，その社会的使命を全ういたしたく，乳ガン，胃ガン，直腸ガンなどの集団検診の普及活動を積極的に展開して参りました。乳ガンの集団検診の受診者数は年々増加の一途をたどって，いまや大阪府下各市町村自治体との協力態勢によって，吹田，箕面，大東，松原，豊中，池田，藤井寺及び四條畷の各市，は大きく検診の環がひろがりつつあり，その成果は着々とあがっています。また，便潜血反応検査による大腸ガンを主とする消化管ガンの集団検診も平行して行われ，さらに財団法人大阪対ガン協会との共催によって大きく拡がりつつあります。

このように本研究会の目的が遂行できますのも，大阪大学微生物病研究所附属病院外科，放射線科の研究と実践行動のたまものでありますが，この活動を深く理解していただいて，多大なご協力，ご支援をたまわっている，大阪府下市町村自治体，大阪商工会議所，吹田母子会，財団法人大阪対ガン協会に対して本当に厚く感謝の意を表したいと存じます。

このようにして，関係方面の方々のご支援によって本研究会の検診活動は益々忙しくな

* 南海電気鉄道株式会社代表取締役社長

ってまいりました。それにともなって本研究会としては，大阪事務所を大阪市生野区巽北３丁目20—29に５月13日より開設いたし，検診業務の円滑化をはかりたいと計画致して居ります。大阪事務所は医療法人育和会記念病院の一角を借用して開設するもので，ちなみに同記念病院は大阪大学微生物病研究所附属病院外科の関連病院であって，本研究会理事の大阪大学名誉教授芝茂先生が院長として就任され，ガンの専門病院として，最新の医療設備とともにスタッフは大阪大学より派遣されて診療にあたられることになっております。

したがって，本研究会の乳ガン，大腸ガン等の一次検診後の精密検診については，大阪大学微生物病研究所附属病院同様に育和会記念病院においても全く同様に行なって載けることになっているので，地域性を考えると受診される方には大変便利となるものと確信致して居ります。

このように，本研究会としては，財団法人大阪対ガン協会，大阪商工会議所あるいは大阪府下市町村自治体の御支援によって検診活動の環をひろげて一大国民運動と致したい所存でありますが，その精密検診の重要性さらに早期治療の重大性にかんがみ，大阪大学微生物病研究所附属病院ならびに育和会記念病院の絶大なる御協力を心からお願い致したいと存じます。

1980年代は激動の時代といわれております。政治・社会・経済的にみて大変きびしい年であると存じます。

それだけに，国民の健康がなによりも大切であります。

ガン征圧を通して本研究会の活動も一層重要な役割を持つものであると自覚し，今後ますます努力してまいる所存でございますので，皆様の強力なご協力，ご支援を切にお願いいたします。